

## あなたの知らない文字の世界

普段、本や広告、テレビやインターネットなどさまざまな場所で目にしている文字。今日は何気なく目にしている文字にこだわり魅せられた人の本をご紹介します。

1冊目は、井原奈津子/著『美しい日本のくせ字』です。

美しいという形容詞とくせ字はなんだか矛盾を感じる組み合わせですが、子どもの頃から人の手書き文字に興味があり、手書き文字が好きすぎるあまりなぜか文字を収集してきた著者は、書く人の個性や特徴があらわれるくせ字には整ったきれいな字にはない美しさがあると言います。キティちゃんの文字や映画の字幕の文字、芸人や有名人の文字だけでなく、路上におちていたメモまで広く収集したくせ字たちを見ると、くせ字の奥深さを感じるとともに、文字からその人の存在が感じられます。

2冊目は、正木香子/著『本を読む人のための書体入門』です。

パソコンで文書を作成しようとするとき、みなさんが最初にするのは書体(フォント)を選ぶという行為ではないでしょうか。約30年前に日本にアップルコンピュータが登場したとき2種類しかなかった和文フォントの数は、今では3000種類以上あるといわれています。どうして世の中にはこんなにたくさんの書体があって、人はどのように書体を選んでいるのでしょうか。本書の冒頭では、明朝体、ゴシック体、行書体、ファンシー書体で『吾輩は猫である』が書かれています。同じ文章なのにその文章から受け取るイメージは全く違います。文字は言葉を視覚化するためのものですが、同時に私たちは無意識のうちに書体の持つイメージを感じとっています。本書で語られる書体の魅力を知れば、言葉の色やにおいを感じ、文字を味わうことができるのではないのでしょうか。

3冊目は、小林章/著『フォントのふしぎ』です。

著者は、日本人ですがアルファベットのデザインの専門家としてドイツの会社で働くフォントのデザイナーです。本書は、和文フォントよりさらに種類の多い欧文フォント、そのどれを使ったらいいの?と迷っている人ための指南書です。といっても難しくはありません。高級ブランドのロゴが高級に見えるメカニズムや、意外と知らない文字と記号の話などがわかりやすい切り口でまとめられています。

文字の他にも、一般特集コーナーでは「あなたの知らない〇〇の世界」というテーマで普段何気なく目にしている見過ごしがちなものに焦点をあてたこだわりの本を展示しています。ぜひご覧ください。